

# 外来種ヒメリンゴマイマイの茨城県神栖市からの記録

A Record of Invasive Alien Snail, *Cantareus aspersus* (Pulmonata: Helicidae)  
from Kamisu City, Ibaraki Prefecture

○池澤広美（茨城県自然博物館）・渡邊 健・岡部 克（茨城県病害虫防除所）・黒住耐二（千葉県立中央博物館）  
Hiromi Ikezawa<sup>1</sup>, Ken Watanabe<sup>2</sup>, Katsu Okabe<sup>2</sup> and Taiji Kurozumi<sup>3</sup>  
Ibaraki Nature Museum<sup>1</sup>, Ibaraki Prefectural Plant Protection Office<sup>2</sup> and Natural History Museum and Institute, Chiba<sup>3</sup>

## はじめに

ヒメリンゴマイマイ *Cantareus aspersus* (= *Helix aspersa*) は西ヨーロッパから地中海沿岸を原産とし、食用とされる陸貝である。ヨーロッパからの移住などに伴う意図的な持ち込みもあり、現在では世界の温帯から亜熱帯の地域に広く定着している。農業上、有害な陸貝で、日本では植物検疫でチェックされていたことなどにより、近年まで定着はしていなかった。しかし、2009年に大阪府門真市の田地内で発生しているのが発見され、その後も東京都江戸川区などで本種が確認されている。今回、神栖市で新たに本種が確認されたので、その生息状況などについて報告する。

## これまでの経緯

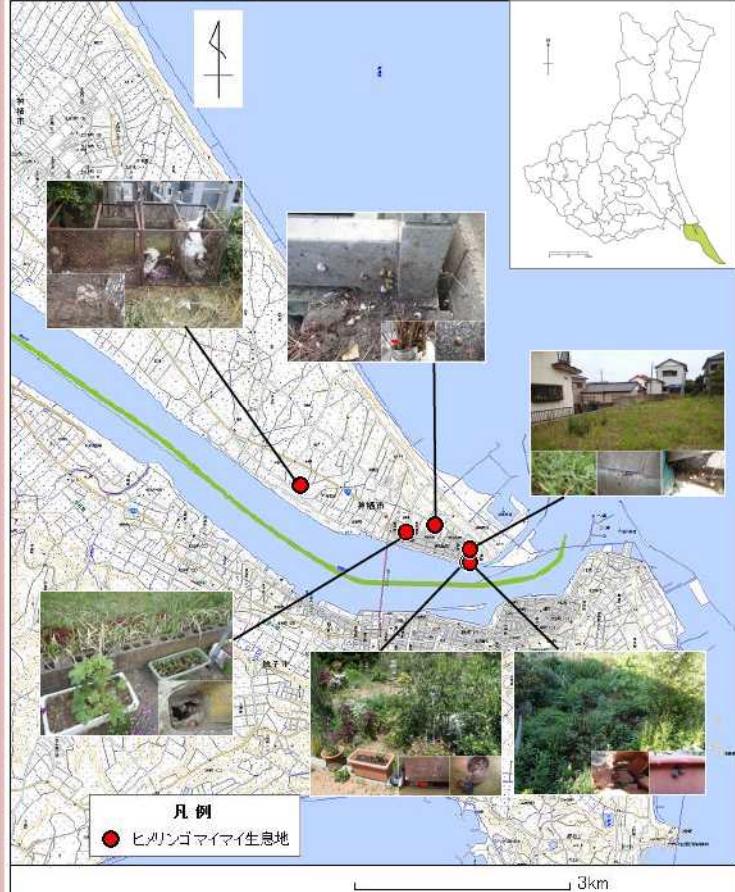
著者らは2015年4月下旬、茨城県神栖市波崎にある民家の庭の花壇に本種と思われる陸貝が発生しているとの情報を得たため、5月2日に現地でサンプルの採集と生息調査を実施した。その結果、発生種はヒメリンゴマイマイで、生息地が複数存在し、園芸植物が食害されていることが分かった。現在、本種の生息状況や分布の詳細を把握するため、国と県が協力して調査を行っている。これまでに6月16日、7月29日、8月22日に、神栖市と銚子市の墓地や民家の花壇などで現地調査を行った。



ヒメリンゴマイマイ (2015.5.2 神栖市波崎)  
殻径3~4cm。殻は赤濃褐色で黒い縞模様があり、全体的に丸い形をしている。

## 神栖市における生息状況

生息地は神栖市波崎の民家の花壇や寺の墓地など、6カ所に分布し、2地点間の最大距離は直線で約2.6kmに及んだ。発見場所は、植物の葉や茎の他、コンクリート塊、建築用コンクリートロックの空洞部、植木鉢やプランターの側面や下、墓石やその隙間、墓地のゴミ捨て場などであった。また、成貝だけなく幼貝(最小で殻径5mmほど)も確認された。



神栖市におけるヒメリンゴマイマイの生息地  
※背景図は国土地理院の「ウォッちず」を(1/25000地図)を使用している。

## 園芸植物への被害状況

野外では、民家の花壇にあるデルフィニウム、ユーリオブスデージー、パンジー、クリスマスローズ、タチアオイなどの園芸植物の葉や花弁の他、墓地の供花などが食害されていた。



## 摂食実験

野菜に対する嗜好性を調べるために、キャベツ、トマト、ナス、ニンジン、キュウリ、サツマイモ、ピーマンの7種類の野菜を与えてみた結果、野菜の種類によって時間は異なるものの、全ての野菜を摂食することが分かった。



容器にそれぞれの野菜、カトルボーン、ヒメリンゴマイマイの成体3個体を入れて1日ごとに摂食のようすを観察した。

## まとめと今後の課題

聞き取り調査によると、本種が最初に確認されたのは2012年秋であるが、移入経路は不明である。しかし、園芸植物が存在する場所で確認されていることから、神栖市内での本種の移動にこれらの植物が関与している可能性があると考えられる。オーストラリアやカリフォルニアでは、本種による農作物への大きな被害も知られている。今回の調査結果では、神栖市に定着していると考えられ、将来的に分布拡大による農作物への被害も懸念される。引き続き、国や県など、関係する行政機関と博物館が連携して本種の詳細な生息調査を実施し、分布の実態の把握を急ぐとともに、早期の駆除対策を講じる必要があると考える。本種を確認された場合は駆除を実施していただくとともに、発生情報を博物館まで提供していただきたい。

最後に、本調査を進めるに当たり、資料や情報の提供などでご協力いただいた横浜植物防疫所に感謝申し上げる。